▼「缶詰だよ人生は」
（黒川勇人著）

缶詰に魅せられ、自宅兼事務所に約4200缶、総重量400㌔余りを保有するという「缶詰博士」の著者。少年時代の思い出から海外事情、変わり種の紹介まで、肩の力が抜けた語り口ながら、缶詰愛はぎっしりだ。

じか火にかけていいのか、食べごろはあるのか、アウトドアに不向きな缶詰とは？など「おまけ」の話も実用的で面白い。非常時の必需品として、食卓のお助けグッズとして身近な存在だが、その割によく知らない缶詰との距離が読後には縮まりそうだ。（本の泉社・1300円）